



# 航 跡

早稲田ヨットクラブ会報

昭和62年 6月発行

発行者・事務局長 木村光成  
編集・広報室 米田晴二  
石田晋也

— 21 —

## 良き伝統と より若い感覚を!!

会長 小澤信三郎

梅雨も間近、あじさいの咲く季節となりましたが、OBの皆様には元気でご活躍のことと思います。

さて、去る2月のOB総会におきまして、理事の交替が承認され、新しい執行部が誕生致しました。杉山、舟岡両君を初めとする前執行部の皆様には、6年間の長きに亘り本当にご苦労さまでした。

数ある早稲田のOBクラブの中で、我がヨットクラブがその団結の堅さ、組織の確かさにおいて最高のクラブ



に成長し得たのは、ひとえに両君を初めとする前執行部の皆さんの努力の賜であり、その集大成が50周年祝賀会、50年史「航跡」の成功となって結実したものと考えております。

これからは、並木、木村両君を初めとする新執行部の皆さんに舵取りをお願いする事になりますが、良き伝統は踏襲しつつも、我がクラブの一層の発展のために、より若い感覚で思いきった施策を打ち出して頂きたいと思っております。特にクラブが更に飛躍するために、財政的基盤をより強固なものにする事を、新執行部の皆さんにお願いしたいと思います。

若返った新執行部をどうぞ暖かく見守り、お育て下さいますよう、よろしくお願い致します。

## 新執行部スタート

2月18日、当クラブの総会が永楽倶楽部で開催され、新しい理事、役員が決定しました。新執行部は並木茂士理事長、木村光成事務局長を中心に編成されました。総会では、61年度報告、62年度の諸計画と予算も夫々承認され、次いでヨット部役員とコーチング・スタッフの紹介が行われました。懇親会もぐっと盛り上って、新執行部を激励いたしました。

- |       |       |      |      |
|-------|-------|------|------|
| 原田弘   | 安藤順一  | 横山敬三 | 和田長雄 |
| 山本ゆみ子 | 伊藤宏   | 武藤忠  | 山田徹夫 |
| 三塚正文  | 赤松幹男  | 川瀬修平 | 野本久  |
| 小川寛樹  | 市村彰浩  | 長瀬勇人 | 宮崎貢  |
| 森田明愛  | 小野芳夫  | 瀬川洋二 |      |
| (東 北) | 平野和夫  | 大野清隆 |      |
| (中 部) | 村瀬治美  | 若松徳生 | 山内憲治 |
|       | 大島徳治郎 |      |      |
| (関 西) | 天神保彦  | 圓谷忠  | 吉田秀  |
| (九 州) | 長医秀明  | 冬至真也 | 恒川由己 |

### 62~63年度

### 早稲田ヨットクラブ役員

- (会 長) 小澤信三郎  
(副 会 長) 山田金次郎 新名敬一 山原正信  
宮川清 永元作一 堀江喜三  
癸生川正安  
(理 事 長) 並木茂士  
(事務局長) 木村光成  
(総 務) 七井丈志 大興太郎 石井哲  
(経 理) 石川光男 中島健治  
(監 査) 石井幸夫 浜田裕  
(事 業 部) 舟岡正 松島弘行  
(大 型 艇) 頼義人 大矢木・杉井謙治 酒井俊夫  
芝崎俊行  
(広 報) 米田晴二 石田晋也  
(理 事) 千葉栄作 杉山博保 武村洋一  
清水栄太郎 山品賢二郎 菅山義政

### 62年度 ヨット部役員

- (部長) 矢頭敏也 (講師) 横田豊  
(監督) 加藤文生 (助監督) 大原義昭 風間利也  
(総務) 中島健治 (招待コーチ) 小松一憲  
(ヘッド・コーチ) 渡辺享 (新人教育) 武村洋一  
(470コーチ) ●地曳克二 黒田浩司 鎌田等 小山良二  
佐々木陽一 野本久 松下益暢  
(スナイプ・コーチ) ●小池充郎 小川寛樹 森田明愛  
市井久也 小野芳夫 瀬川洋二 新里和也  
(●印は主任コーチ)

### 現 役・役 員

- (主 将) 鈴木光宏 (副 将) 羽田晃  
(主務・OB係) 渡辺誠二 (学 連) 大杉高司  
(稲龍・OB係) 石井康夫  
(新人係) 長谷川正和 坂部匡



## 並木理事長 木村事務局長に インタビュー

—このたびは大役就任ご苦労様です。

**並木・木村** 前執行部の杉山先輩、舟岡先輩のあとを受けて大役お任せつかりました。OBの皆様のご指導ご支援をいただきつゝ、早稲田ヨットクラブが益々充実したものになるように微力をつくしたいと思います。このクラブがOBの親睦の母体として発展して、ヨット部の後継として強力になることを目指します。



—クラブを充実・強化する為にどんな手をお考えですか？

**並木** 今回の執行部には若い方も多く参加してもらいました。若手OBにどんどん活躍してもらうことを期待しています。さらに地方在住OBのクラブ活動へのご参加の機会を多くしたいと考えます。中部・関西・九州などの支部の皆さんとの交流を深めたいと思います。理事会を各地で開催したいのです。この考えを会長にお話したところ、小沢会長も「俺も行ってやる」ということで本当に嬉しく思っています。

—OB相互の親睦をより一層深める為のスケジュールは？

**木村** 新理事長中心に理事の皆さんとどんどん具体的に計画しています。とに角、気軽集って、旧交を温めあう機会を沢山作りたと思います。先づ7月に三戸浜で「夏のつどい」を予定しています。昨年初めて実施して大好評でしたね。OB親睦レース、バーベキューパーティが中心です。日頃クラブと疎遠になっているOBの方々にも声をかけてご家族共々充分楽しんでいただきたいです。クラブの集いが同期会にもなる様に皆さんご協力下さい。

—早稲田ヨット部への支援について

**並木** 現役ヨット部への精神的・物質的バックアップは当クラブの大きな目的の一つです。運動部である以上究極の目的は勝つことにあります。早稲田大学ヨット部は強くなくてはなりません。そして自艇主義をとっている現在の学生ヨットレースで良い成績をとるには、金がかかるのも現実で避けられないことです。OB皆の力で少しでも学生の負担の助けになることはしてやりたい。

## 退任ご挨拶

杉山博保

3期6年間という長い間、理事長を務めさせていただきましたが、小沢会長のご承諾、総会のご承認をえて後任に引継ぐことになりました。私には余りに重い役でありましたが、幸い熱意のある理事諸氏、殊に舟岡事務局長、浜出経理、加藤総監督の皆さんにオンブにダッコの6年間でした。

この間皆様方の熱意あるご協力により、我がヨットクラブは新しい事業もスタートさせられましたし、運営全体を拡大できました。理事会も近年一層定着した形とな

**木村** 現役の部員達も、夏の一般学生対象のヨット実技講習への指導協力とか、冬のシーズンオフ集団アルバイトなどでかなり頑張っています。OBとして彼らがより練習やレースに専念できる様にしてやりたいと思います。昨年度の理事会で最も多く討議された「金のかゝらない学生レースの実現」というテーマは、継続的に皆さんと相談してゆきたいと思います。

—資金的支援状況はどの程度？

**木村** 昨年は153人のOBが年会費として1万円づつ払い込んで頂き、又ご寄附も160万円に達しました。その内から約190万円をヨット部に援助しました。うちの部はOB総数400人ですので、幅広いご負担をお願いしたいと思っています。一部のOBに過度なご協力を仰いでいるのが現実なのです。出来るだけ公平な運営を心掛けたいと考えます。皆さんのご協力をお願い致します。

—昨年来の稲竜大整備も前執行部で進めてきたのですが、いよいよ再進水ですね。稲竜をどう運営しますか。



**並木** 稲竜は早稲田ヨットのシンボルとして、学生もOBも大切にしてきたのですが、建造以来22年で相当老朽化していた。大学の所有艇であって、一般学生の海洋思想普及の為の実技ヨットの教材ですからクラブの一存で勝手にどうこう出来ない。

前執行部の真剣な検討と造船専門家による艇体診断の結果、大学当局のご理解も得られ、誠に幸いなことに大整備が成功しました。(4月26日再進水) ヨットは飾り物ではない、正しく運用することが大事です。稲竜委員の皆さんが具体的運営を開始しています。クラブの海の集いには必ず参加出来ます。

—クラブの地位がしっかりしてきた事は自他共に認めるところで、今後さらに大きくなる方策は？

**並木** 早稲田の数ある運動部の中でも、他の大学運動部の中でも、これ丈まとまったOBクラブは少ない、と思います。このクラブを維持し発展させてゆくのが私共の任務です。一番大切なことは人の団結、次に資金面の裏付けが欠かせません。OBの皆さんの常々のご援助に感謝しています。さらにしっかりした財政基盤を確立したいと存じますので、是非ご支援お願い致します。稲竜大整備の後始末もありますので第一年度はそれを乗り切り、足元を確めてから次に進みたいと思います。皆さんの理事会へのご参加を期待しています(OBなら誰でも参加・発言自由)。そこで一緒に次のことを相談しましょう。

りまして、新しい企画を打出し実現に努力して参りました。大先輩の築いて下さった貴重な早稲田ヨットの伝統を後輩に伝え、又OB皆様方の団結親睦の場を築く事が最大の使命として活動してきたつもりです。

ヨット部創立50周年の催しの際のクラブの皆様方のご協力ご援助に対しましては終生忘れられない感謝の気持ち一杯であります。ありがとうございました。

新しい理事会が編成されました。新体制下での若さあふれる運営を期待してやみません。私も平理事のハシクレとして今後共微力を尽すつもりです。皆さん、新理事会にご協力下さる様、心からお願い申し上げます。

# ▷▷ 稲龍再生 ◀◀

廃艇か、大改修か。安全面と資金面での大討議と、専門家の慎重な診断の結果、大学の承認も得て、稲龍は生れ故郷の岡本造船所で改修工事が実施され、こゝに美事に再生致しました。

4月26日、横浜ヨットクラブ(岡本)にてOB多数の参加を得て、乗艇会と披露パーティーが賑々しく挙行されました。

(出席者)横田・渡辺・石井・大津・米田・足枝・千葉・杉山・浜田夫妻・舟岡・並木・土肥・木村・山中・頼・岡部親子・石川・平戸親子・杉井・屋原・長谷山夫妻・他来賓。

## ●稲龍・廻航 油壺へ

(その1) 5月3日 8.00 米田晴・遊佐・千葉・岡部・杉井にて出航。前線通過の為、南よりの風15mの強風。赤白灯台を出てからリーフ帆走約2時間。のぼりで波風と闘い潮水を浴びること数度。観音崎へ一本のコースをとってねばったがやがて風がふれ真上りとなったので廻航中止し横浜へ戻る。安定感のある稲龍にすっかり満足しました。

(その2) 5月5日8.00 千葉・杉井・齊藤・新里。快晴、超微風、機帆走。4時間で油壺へ。9ヶ月ぶりの入港。エンジンも快調だった。

## ●稲龍運営委員会

5月14日、六本木・プランテーション

(出席)米田晴・千葉・石川光・金刺・杉井・森田。  
(イ)整備とトレーニング(5月-6月) (ロ)油壺横浜クルーズ。岡本造船所の了解がとれているので、7月-8月は横浜・岡本造船所に係留し、7月18日(土)より、土曜・日曜をつかい、油壺往復クルージングを行う(OBの参加しやすいことを配慮)。8.00集合、岡本へ。連絡は全て杉井。会社993-6291 内田工務店内 自宅999-9520 (ハ)秋からレース出場を目指す (ニ)運営責任・杉井 (ホ)保険加入手続などを決定。各OBの積極的参加を期待します。

## ●稲龍資金捻出策 — 保険加入お願い—

稲龍運営上の安定的収入源を持つため住友海上火災保険(株)および、千代田経営開発(株)(42年卒、石川OB)のご協力を得て損害保険の募集を企画しました。

現在ご加入中、あるいは新規加入の火災保険や自動車保険などの契約をヨットクラブ扱いにすることによって、代理店収入を得ることが目的です。新規はもとより更改の節は是非共ご協力いただけるようお願い申し上げます。

連絡先：千代田経営開発 石川 03-478-6841

(稲龍委・杉井)

# 関西OB 健在なり

3月28日(土)、大阪で移動理事会が開催された。小沢会長、横田講師、並木理事長以下、米田晴、上肥、木村、大、石井哲、石川光の9氏が、新幹線で大阪へ。

大阪側は天神、園谷、吉田、鈴木、守屋、宮本、恒川の7名が参加。

10年~20年~30年と会っていない顔々もあったわけだが、新大阪駅での第一声は「ようー」「お変わりありませんか」であり、この言葉のやりとりで長い空白の時間が満され、全員の胸中で移動理事会は成功していたのかも知れない。

理事長よりヨットクラブの現状および財政状況などを説明して協力を要請、また本年は全日本インカレが琵琶湖で開催されるので支援をお願いした。関西OBから「出来る丈の協力をする」との力強い言葉をいただいた。

懇親の1次会、2次会共大盛會にて、遂には曾根崎新地で車の交通を遮断しての大記念撮影と相成りました。

関西OB、正に健在でありました。

(出張の皆さん、ご苦労様でした。) (天神・米田)

# A級ディングー保存成功

母なるふね、12フィート・ディングーを保存しようという作業は、それを愛する者たちの熱意で成功いたしました。岡本造船所での点検で、原構造がしっかりしていたので修理を行えば帆走も可能との診断を得、この道30年のキャリアのある職人の藤田さんに修理してもらい、持ち込んだ2隻とも生き返りました。

オーシャン・ライフ誌上に、この事が岡本さんの手で紹介されました。曰く、

「小型木造船艇が忘れ去られようとしている今日に、早大OB 諸氏はかつて操縦したA級を徹底的補修してまで保存し、又乗ろうとされるその心意気は艇への愛情なくしては出来得ない事である。これは、造る吾々の側にしてもこれ以上の嬉しい話はない」と。

# クラブ・タイ製作中

早稲田ヨットクラブの正式ワッペンに続いて、正式なネクタイを準備しようという声が高まり今事業部で制作中です。42年OB 豊田氏にデザイン提案をお願いし、理事会で選定しました。7月の「夏の集い」までには皆様に気に入られるセンスの良い上等なクラブ・タイを製作いたします。(事業部・舟岡)

## 速報!! 早慶戦・引分け

去る6月6日、7日第47

回早慶戦が三戸浜沖で行われたが、初の引分けとなった。尚再試合は行わない。

1986年度決算報告

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	235,529	ヨット部奨励金	1,921,060
年会費	1,530,000	船電奨励金	484,141
寄附金	1,609,166	会合費	1,100,086
会合費	1,150,050	諸会費	130,000
込告料	920,000	謝礼・慶弔費	200,000
雑収入	4,023	公報通信印刷代	311,480
		名簿印刷経益代	620,000
		次期繰越金	682,883
合計	5,449,570	合計	5,449,570

1987年度予算

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	682,883	ヨット部奨励金	1,500,000
年会費	1,600,000	船電奨励金	1,000,000
寄附金	1,600,000	会合費	1,000,000
会合費	1,000,000	諸会費	200,000
雑収入(利息)	7,117	謝礼・慶弔費	200,000
		公報通信印刷代	500,000
		予備費	490,000
計	4,890,000	計	4,890,000

## キッチン逝く

# — 小沢吉太郎氏 —

日本ヨット協会最高顧問の小沢吉太郎氏が、3月11日永眠されました。満79歳でした。故人の遺志により、遺体は順天堂大学に献体し、葬儀・告別式等は一切行わないということが伝えられました。3月12日夕方、お祭の水順天堂大学附属病院に到着した遺体とひとときの対面をと、都内在住のヨット関係者が多数つめかけ、悲しみをもってお別れをしました。静かで威厳に満ちた死顔でした。

4月18日、日本ヨット協会、日本少年ヨット連盟、日本420協会が氏の追悼会を竹下登実行委員長のもと、体協で開催し、次いで4月19日関東学生ヨット連盟は葉山の海上で追悼会を催しました。

氏は、わが早稲田ヨットクラブ小沢会長と協力して、昭和7年の日本ヨット協会設立に尽力され、戦前・戦後を通じて学生ヨット界の発展をはかり、戦後は国民体育大会をもとに、日本全国にヨットハーバーの建設を促進し、オリンピックを核として日本のヨット界を国際舞台に登場させ、昭和39年の東京オリンピックヨット競技を成功させた実力者でありました。

東京オリンピック後は、OP ディンギーをデンマークから輸入し、江の島に子供達を集め少年ヨット育成に力を注いで来ました。日本のヨット界を底力のあるものとして発展させる為には、欧米並みに子供の時からヨット教育が必要との考えから始めたものと思います。

日本の学生ヨット界に籍を置いた人達は皆、何らかの形で“吉っちゃん”の薫陶を受けたと思います。早稲田に於いては、昭和10年の第1回から昭和18年の第9回迄早慶戦の帆走委員長をすべて氏にお願いしていたようで、戦前派のOBとは特別親密な関係をお持ちでした。

戦後派の我々も昭和30年代迄は氏の影響を受けており、各OBがそれぞれ思い出を持っていることと思います。4月18日岸記念体育館で開催された「追悼の会」では、大勢のヨットマンが集まり大盛会でしたが、早稲田のOBはその中でも特に多く、総勢30数名が参加しておりました。

私にとっての“吉っちゃん”は、学生時代はとても近寄りたく、私が初めて部の遠征に参加させていただいた昭和29年の全日本インカレ（高松）では、帆走委員長として、裏皮製グレーのショートパンツをはいた“吉っちゃん”はルールの神様みたいに見えたもので、どんなにもめたケースでも、氏の迫力ある一言ですべてが確定する位権威のある方でした。

20年位前、江の島で少年ヨットを指導されていた頃、私に「子供達にヨットを教えるのは楽しいよ。子供はお前達みたいに理屈をいわないで、ハイッ！と答えて俺のいう通り行動して呉れるからなあ」といわれたのを思い出します。その頃から氏が目指した日本ヨット界の底辺拡大は、間違いなく今日見事に開花したといえるでしょう。

昨年12月に私は氏の健康が思わしくないという事を知り、お見舞にあがろうとしたのですが、チャンスがなく、亡くなる1ヶ月位前に葉書をいただきました。葉書の内容は、千葉の四街道に新居が完成したことと、陽気が良くなったら訪問してもらうことを楽しみにしているということで、病気については一言もふれていませんでした。噂程病気の方は重くないのかなと思ってた所に今回の訃報であり、ショックを受けました。後で諸先輩の話を聞くと、誰からも見舞いを断っていたようで、“吉っちゃん”らしい見事な最後と感じ入りました。

昭和62年3月11日、横浜の満潮は04：17でした。人が死ぬ時は引き潮の時と聞いていますが、“吉っちゃん”は満潮に向って天寿をまっとうしたのです。心から御冥福をお祈りいたします。

(31・舟岡 正)

## 会費とご寄附のお願い

わがクラブの理事諸公の経営センスは仲々のレベルにあり、出費に対する態度は極めて厳しく、又事業の推進方法も仲々ユニークです。しかし、これらの活動を支えているのは別掲の予算・決算に見られる様に健全な財政です。皆様にはいろいろな形での出費ご協力をいただいておりますが、最も基礎になるのは本部と個々のOBの皆さんとの直結した会費納入であります。今夏も早稲田ヨットは元気です。貴殿の力強いご協力ですらに盛り上げて下さい。先づ会費1万円。そして出来ますなら、ご寄附を是非お寄せ下さい。

振込先：第一勧業銀行 日本橋支店  
(普) 038-1445739  
早稲田ヨットクラブ 並木茂上

尚、振込用紙（印刷済）を同封いたします。

## 訃報

生田正宏氏（40年卒）が4月7日急病でお亡くなりになりました。告別式にはOB有志並びに学生が参列し、静かに校歌を歌ってお送りしました。心からご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

■行事多彩にて編集も骨が折れる様になってきましたが、潮風のニュースも多く嬉しい作業です。

■山崎OBが次回アメリカ杯への挑戦を発表。当クラブとしての精神的支援体制を理事会で検討開始しています。次号にはこの事を掲載するかも……。

■紙面の都合上、会費納入者リストを別紙といたします。

■広報担当 名簿・修正お願い。

米田晴二(29年) 自宅郵便番号〒233

勤務先移転 〒103 東京都中央区日本橋富沢町9-19

住友生命日本橋富沢町ビル5F (株)大丸 商務事業部

TEL 03-662-6504 FAX 662-6535

住所及び勤務地の移動は必ず事務局までご一報下さい。